

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	植物発生とゲノム構造のエピジェネティックな制御	研究代表者名	角谷 徹仁
-------	-------------------------	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：
動植物に普遍的に見られるエピジェネティック現象に焦点を当てて、植物の DNA 鎖のメチル化とクロマチンのリモデリングの関連を突然変異体を作成することにより解析し、重要な成果を挙げた。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（○） 十分に貢献できた
- イ（ ） 概ね貢献できた
- ウ（ ） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：
植物では DNA 鎖のメチル化によっても死に至らない突然変異表現型が得られる現象を利用して、新しい成果を得て、関連学問の発展に大きな影響を与えた。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（○） 非常に高く評価できる
- イ（ ） 概ね高く評価できる
- ウ（ ） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：
植物のエピジェネティクス研究で世界をリード出来る成果を挙げ、学術創成研究として相応しい分野を作った。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア (○) 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
質が高く、ユニークな研究論文を公表し、波及効果も高いと判断する。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
○	A+	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

植物の発生とゲノム構造のエピジェネティックな制御に関する研究を展開し、世界に認識される成果を得た。また、予想以上の進展を示した部分もあり、本プロジェクトは学術創成研究に相応しい一分野を拓き、高く評価する。